



2012国際協同組合年事業
大学生協寄付講座

同志社大学 商学部設置
大学コンソーシアム京都
単位互換・京カレッジ科目

協同組合論

— ひと・絆・社会連帯を求めて —

2012年は国際連合の提唱する「国際協同組合年」にあたります。全国の223大学生協でつくる全国大学生協同組合連合会（略称：全国大学生協連）では同志社大学商学部のご協力を得て寄付講座「協同組合論」を開講することになりました。

この講座は、同志社大学提供による大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学の学生を対象にした単位互換授業です。協同組合について学びたいとの希望をお持ちの一般の方は京（みやこ）カレッジを通じて受講することができます。

開催日時

8月28日(火)～9月1日(土)

第2講時：10:40-12:10 第3講時：13:00-14:30 第4講時：14:40-16:10

単位互換制度を利用される方へ

単位互換制度とは、加盟大学・短期大学の学生であれば「他大学が提供する正規科目を受講することができ、それが自大学で単位認定される制度」です。なお、単位認定のルールは大学・短期大学によって異なります。

詳細は「単位互換履修生募集ガイド」をご覧ください

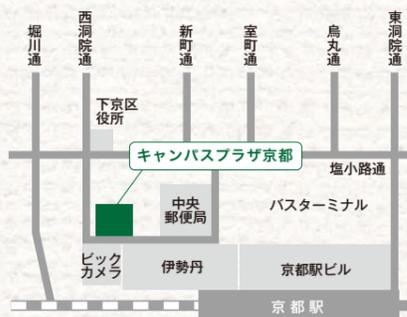
なおお願受付は3月下旬から4月上旬までです（詳しい日時は所属大学により異なります）。

出願票は所属大学の担当窓口へ提出してください。

京（みやこ）カレッジを利用される方へ

京（みやこ）カレッジ募集ガイドは3月9日（金）から配布される予定です。下記宛、お問い合わせください。

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 教育事業部 京カレッジ係
tel 075-353-9140（火曜日～日曜日 9時～17時 月曜日休館）
[E-mail] mc-guide@consortium.or.jp



□ その他お問い合わせ

UNIV. CO-OP 全国大学生協同組合連合会
京滋・奈良ブロック 事務局
〒606-8106 京都市左京区高野玉岡町23-3
Tel 075-712-1156
[E-mail] knb@ma2.seikyoku.ne.jp
[URL] http://ksnet.u-coop.net/

□ 会場

京都市下京区西洞院通塩小路下
キャンパスプラザ京都



2012国際協同組合年

2012国際協同組合年事業
大学生協寄付講座

同志社大学 商学部設置
大学コンソーシアム京都
単位互換・京カレッジ科目

協同組合論

— ひと・絆・社会連帯を求めて —



科目担当者：麻生 潤（あそう じゅん）同志社大学商学部准教授

受講生へのメッセージ

協同組合は事業体という点では営利企業と同じ性格をもちますが、その目的が組合員の相互扶助である点、また組合員が共同で所有し、経営に参加する点に独自性があります。この科目を通じて協同組合について学ぶことは、逆に営利企業の経営の特徴を深く理解することにつながります。多様な領域の協同組合の実像を知ることができるのもこの科目の魅力です。商学・経営学・経済学などを専攻する学生諸君が積極的に受講されることを期待します。



科目担当者：名和 又介（なわ またすけ）同志社大学言文センター教授

国際協同組合年の機会に

今年は国際協同組合年にあたり、その時期にキャンパスプラザ京都で、「協同組合論」の講義が始まります。京滋・奈良地域の大学生協が7年間、賀川豊彦の研修を続けてきたことも大きな機会になりました。「今なぜ、協同組合なのか」みなさんとともに学びたいと思います。

全15回 開催日時（5日間／1日3講時）

8月28日(火)～9月1日(土)
at キャンパスプラザ京都

- 定員140名（内京カレッジ生20名程度）
※希望者多数の場合、抽選になります。
- 授業時間帯は2講時（10:40～12:10）、3講時（13:00～14:30）、4講時（14:40～16:10）
- 講義には毎回レポートの提出を求めます。

寄付

UNIV. CO-OP 全国大学生協同組合連合会

企画協力団体

京都府生活協同組合連合会 近畿労働金庫

テーマと概要

2012年は「国際協同組合年」にあたる。そこで本科目では協同組合について、その存在意義、起源と歴史、現在の課題と将来展望を専門家の講義により紹介し、受講者とともに協同組合のあり方について考えていきたい。

具体的には、まず協同組合の存在意義を説いた上で、中世の大学における協同組合的運営、産業革命以降のロバート・オーエンなどの社会改革と協同組合とのかかわり、ロッヂデール公正先駆者組合の成立など協同組合の成り立ちと沿革を紹介する。また現在の協同組合について、その果たしている役割や直面している諸問題、青年組合員の抱負、東北の大震災に対処する協同組合の取り組みなどを紹介する。講義には京都の農協・漁協・森林組合の他、医療生協、労働金庫、京都府生活協同組合連合会・コープこうべなどから多彩な特別講師を招き、各種の協同組合の実像と多様な活動・事業を紹介したい。また今後の協同組合のあり方については、協同組合連帯や協同組合と市民社会の観点から模索する試みも紹介し、万人のための協同組合の未来にも言及したいと考えている。

第1回～第3回
8月28日(火)

第1回 10:40-12:10

今なぜ協同組合なのか

2012年は国際協同組合年です。世界の平和を維持・発展させるといふ国際連合の目的を達成するためには、世界で10億人ともいわれる人々を組織する協同組合の力が欠かせないと判断し、2009年の国連総会で決めたのです。たしかに、世界を日本を見渡してみるといろいろな事がうまくいっていない。特に資本主義のメカニズムが円滑に動いていない。

第1回目の講義では、資本主義の限界と協同組合の役割というテーマでお話しをする予定です。



【全国大学生協共済連会長 札幌国際大学学長】
濱田 康行

第2回 13:00-14:30

協同組合の歴史

近代的な協同組合の姿は19世紀半ばのイギリスにおけるロッチデール公正先駆者組合にみられる。当時の社会の状況の中で協同組合思想家たちの描いた理想はどのように実践されてきたのか。またそれが世界や日本にどのように広がってきたのかを俯瞰し、協同組合のかかげる原則や価値を理解する。



【関西大学教授】
杉本 貴志

第3回 14:40-16:10

賀川豊彦と協同組合

賀川豊彦たちの協同組合運動を、救貧や貧困との戦いとして仮に「ver.01」とするならば、戦後から現在までは、市場との争い、「協同組合運動 ver.02」なのである。

これからの「協同組合運動 ver.03」の目的が、国連のミレニアム開発目標にあるような貧困、また、東日本大震災によってもたらされた大きな痛み、加えて、日本社会の中であって、見えにくくなってしまった貧困にあるのであれば、あらためて「ver.01」検証の意義があるのではないだろうか。



【賀川記念館館長】
賀川 督明

第4回～第6回
8月29日(水)

第4回 10:40-12:10

「愛と協同」の社会再編をめざして
～コープこうべ90年の歩み～

コープこうべの歴史は、神戸と灘に二つの購買組合が生まれた1921年に遡る。産みの親は賀川豊彦とその思想に共鳴した二人の実業人(福井捨一と那須善治)だったが、賀川が期待していたのは「愛と協同」の社会再編を進める社会改革運動であった。両組合が戦後、1962年に合併し「灘神戸生活協同組合」となり、1991年に「コープこうべ」と改称して今日に至っているが、当初、両組合で1,714人だった組合員が今では1,670,796人となっている。本講ではこのコープこうべの歩みとその今日的意義を概説する。



【コープこうべ協同学苑長】
野尻 武敏

第5回 13:00-14:30

女性の生き方と生協

～私の「個人史」・京都の生協とのかかわり～
私が生協とかかわるようになったキッカケ……京都生活協同組合理事長・京都府生活協同組合連合会会長理事の任について……など、「個人史」をつづじて、京都の生協の過去・現在・未来についてお話ができたかと考えています。若い女性職員をゲストに招いて、「なぜ就職先に生協を選んだのか」についてのショート・スピーチも予定しています。



【京都府生活協同組合連合会 会長理事】
小林 智子

第6回 14:40-16:10

協同金融の社会的な役割と課題

投機マネー主導型経済が、今、深刻な危機を世界にもたらしています。一方で、痛んだ地域とコミュニティの再生をめざす市民の動きは世界の潮流となっています。分野とセクターを超えて登場するこれら社会的プレーヤーを支えるには、協同の理念から立ち上がった金融が、いかに意思ある資金を地域に循環させていくのがポイントとなります。本講義では、近畿ろうきんの事業を通して、これら協同金融の役割と課題、そして、社会づくりの道具立てとしての可能性を探ることとします。



【近畿労働金庫地域共生推進部部長】
法橋 聡

第7回～第9回
8月30日(木)

第7回 10:40-12:10

JA(農協)の存在意義について

JA(農協)が設立されて以降の存在価値を検証し、日本経済や地域社会の発展にはたしてきた役割を再確認するとともに、今後の目指すべきJAの姿について、お話をしたいと考えます。



【京都府農業協同組合中央会 専務理事】
牧 克昌

第8回 13:00-14:30

漁業とはどんな産業か
～協同組合の役割～

学生のみなさんは、魚の名前をどのくらいご存知でしょうか。そして漁業にたずさわっている人びとがどのような仕事をしているか、イメージが浮かぶでしょうか。漁業協同組合はどのような役割をはたしているかー京都の魚と漁業を通じてお話しします。



【京都府漁業協同組合連合会 代表理事専務】
倉 勉

第9回 14:40-16:10

森林と人との共生

私たちの生活にもっとも身近な、きれいな水や空気。当たり前のように存在していますが、実は、ふだん目にしていない森林によって育まれているのをご存じですか。そして、この森林から生産される木材を使うことで、日本の文化はつちかわれてきました。そんな森林を守り育ててきた協同組織、森林組合。森林とともに歩んできた森林組合の歴史と森林の大切さを紹介します。



【京都府森林組合連合会 代表理事専務】
青合 幹夫

第10回～第12回
8月31日(金)

第10回 10:40-12:10

中世に始まった学びの共同体

大学というものが中世の西欧で「協同組合」として始まったことをご存知でしょうか。UniversityやCollegeの語源であるラテン語は、学びのために学生や教師たちによって自発的に組織された組合だったのです。中世の大学がどのようなあり方をしていったのかを紹介し、現在EU諸国で進められている大学間の協同であるポローニャプロセスにも触れます。そして、協同組合であった大学のなかにいま存在している大学生協のあるべき姿を考えてみます。



【京大大学生協理事長 京都大学教授】
川添 信介

第11回 13:00-14:30

大学生活と大学生協

学生生活になくはならない大学生協がどのような役割を担い、運営されているのかを紹介します。そして、生協運営を担う学生達が様々な人との関わりや実践の中で学び、成長する姿を紹介します。また、3・11の被害や被災者に対し学生たちがどのようにとりくんできたのかも紹介しながら大学生協の姿を伝え、学びあいましょ。



【全国大学生協連 学生委員長】
佐藤 美香

第12回 14:40-16:10

地域にねざした医療福祉の総合事業

基本理念「みんなちがってみんないい。ひとりひとりのいのち輝くまちづくり」に基づき地域医療・介護・福祉・健康づくりを事業として展開している。2010年3月には熟議の民主主義の実践として千人会議を45回積み上げた病院移転を成功させた。その協同組合のもっている力を引き出すことができたのではないだろうか。



【南医療生活協同組合 総務部人事育成課 次長】
神山 充

第13回～第15回
9月1日(土)

第13回 10:40-12:10

京都における
さくらこめ卵の挑戦

日本の農業と畜産は絶壁に立たされています。有畜複合農業の見直しと、地域内有機質循環と飼料自給率向上と、畜産動物の健康増進を計るために、鶏のごはんづくりを始めました。鶏のごはんを作って卵を生産し、その卵を食べるといふことで、誰もが助かり、喜び、困るヒトがいなくなることがわかりました。稲作と養鶏と流通と販売と購入・消費のそれぞれの人達が協同して取組める仕組みを創り出すことができれば、支え合う「いい関係づくり」が地域ですみます。



【株式会社 ナカデケイラン】
高橋 茂雄

第14回 13:00-14:30

21世紀と協同組合

これまでの講義の理解をさらに深めるため、21世紀における協同組合の役割と課題を大きな視野で考察し、とくに若者と協同組合の関わりを考える。



【全国大学生協連会長 東京大学名誉教授】
庄司 興吉

第15回 14:40-16:10

協同組合論を締めくくる

協同組合論の講義を通じて受講生諸君にどのような学びや発見があったのかをグループに分かれて話し合う。グループの中での話し合った内容の発表を通じて、本講座のまとめを行ないます。



【同志社大学商学部準教授】
麻生 潤



【大学生協京滋・奈良ブロック会長 同志社大学教授】
名和 又介